



# パース通信



Vol.9

今年度1年間交換教員として、オーストラリアのパースに赴任している英語科伊東が、オーストラリアや海外から見た日本についてお伝えします。

今号は、Vol.8の予告と少し違いますが「今、日本に求められていること」についてお伝えしようと思います。

8月も無事に終わり、9月になりました。日本では夏休みが終わって、2学期が始まっていますね。日本では夏から秋に向かって、とても過ごしやすくなっていく季節ですね。ここ、オーストラリアでも冬が終わって春へと季節が移り変わっていく時期で、とても過ごしやすくなっています。北半球と南半球で全く季節は違いますが、過ごしやすくなるという点では同じですね！

8月には夏休みを利用して、兵庫県から本当に多くの高校生のみなさんが西豪州に語学研修やホームステイに来ていました。また、宝塚市の中学生も Applecross SHS で語学研修とホームステイを経験しました。さらに、パースにある兵庫国際文化交流センターでは、神戸大学の2名の学生がインターンとして研修にきていました。兵庫県立大学の学生も語学研修に来豪し、ホームステイを経験しました。こうした学生の来豪を目の当たりにすると、改めて西豪州と兵庫県の結びつきの強さを実感します。

西豪州に来て約半年が過ぎようとしています。毎日の生活の中で、「世界との距離」を感じるようになりました。言葉が先行すると、誤解を生じさせてしまうかもしれませんが、簡単に言うと、『「日本にいたときの自分」と「日本を離れたときの自分」に大きな変化ができた』ということです。

日本では、毎日神戸高塚高校で英語の授業をし、担任として生徒たちと向き合って、サッカー部の顧問をしてサッカーに携わる、そんな毎日を送っていました。神戸高塚の生徒さんは本当に素直で明るく、部活動に対する情熱は本当に素晴らしいです。また、自分の将来を見据えて、ボランティア活動や学校行事にも一生懸命取り組む姿にたくさんの力をもらっていました。大好きなサッカーに携われる幸せを日々かみ締めていました。神戸高塚高校で教員として働けていることにとても満足していました。

ですが、縁あって西豪州で1年間交換教員として働くことになり、忙しい中あつという間に半年が過ぎました。海外で生活をしていて、日本の社会を見ていると今まで見えてこなかったことが見えるような気がしています。それはきっと、日本にいただけでは気づかないものの考え方や視点を手に入れたからだろうと思っています。

私は以前から、「これからの日本が世界の中でどのような役割を果たせるか」、「どのように世界の中で日本の力をアピールできるのか」をずっと探って、生徒たちと一緒に考えてきました。人口が減っていき、高齢者が増えていくこれからの日本では、今までのように物を作っても売れません。その日本で売れなくなった分を、そのまま海外で売ろうとしても売れません。今までやってきたことが通用しなくなってきているのです。「一生懸命いわれたことだけをしていけばよい」という価値観では世界では生き残っていくことはできません。

今日本に求められていることは、世界の現状を知ることです。日本は先人たちの努力で、豊かな国になりましたが、世界が変わっていくことについていけない印象があります。一番顕著な例は、スマホです。日本では素晴らしい技術力を背景に、携帯電話を独自の進歩させていました。ですが、その携帯電話は日本国内でしか売れていませんでした。本来であれば、世界でも通用するような商品を開発すべきだったのに、日本国内だけで売って、それで利益がでることに満足していたのでしょう。世界で求められていることを見逃して、日本国内だけを見ていた結果が、今のスマホの世界シェアに現れています。日本の技術があれば、きっと素晴らしいスマホが開発されていたはずなのに、そうすることができませんでした。世界の市場で勝負をしようとする姿勢がなかったからだと思います。

これからの日本に求められていることは、本当の意味で世界を視野に入れるということです。

皆さんは今、世界がどのように変化しているか関心を持っていますか。

今回の通信は、「グローバル化とは何か」をお届けしようと思います。